

栗駒山の火山活動解説資料（平成 25 年 12 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 4、5）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

9 日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、前回（2013 年 1 月 21 日）と比較して、ゆげ山、旧火口付近、ゼッタ沢上流、昭和湖付近の噴気及び高温域¹⁾の状況に特段の変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図 6、7）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

なお、栗駒山周辺では、「平成 20 年（2008 年）岩手・宮城内陸地震」の余震域内で地震活動が続いています。

・地殻変動の状況（図 9）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 栗駒山 山頂周辺の状況（12 月 26 日 13 時 00 分頃）

大柳（山頂の南東約 20km）に設置してある遠望カメラの映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 1 月分）は平成 26 年 2 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

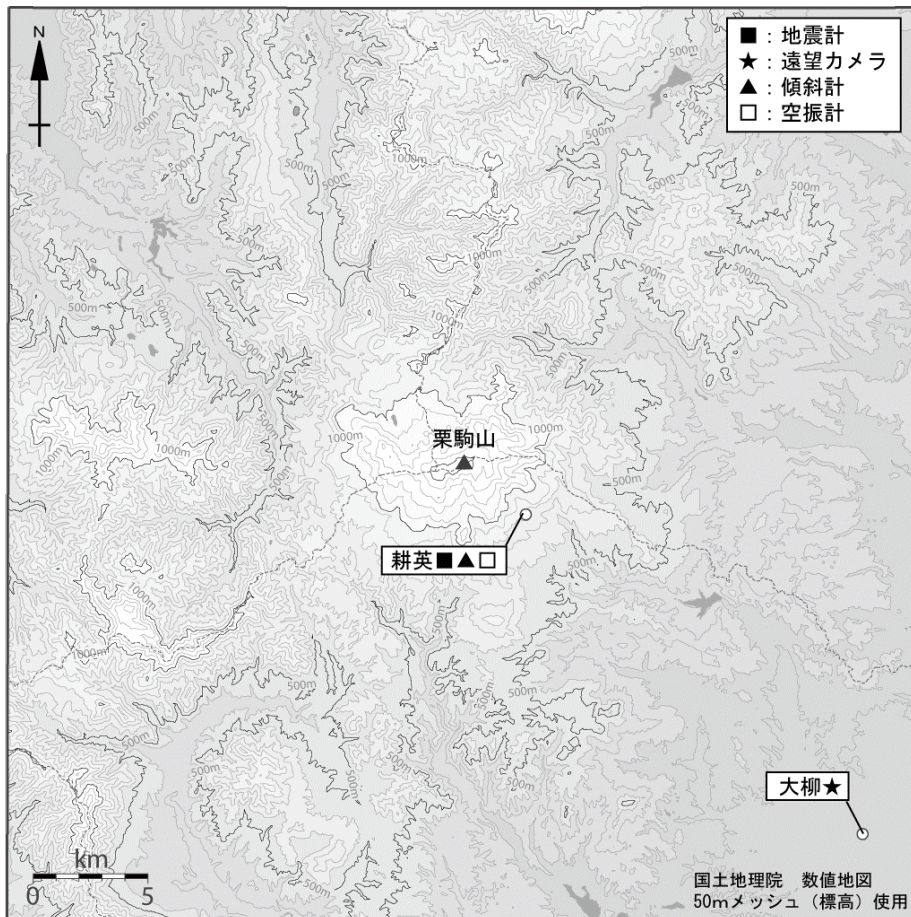


図2 栗駒山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。

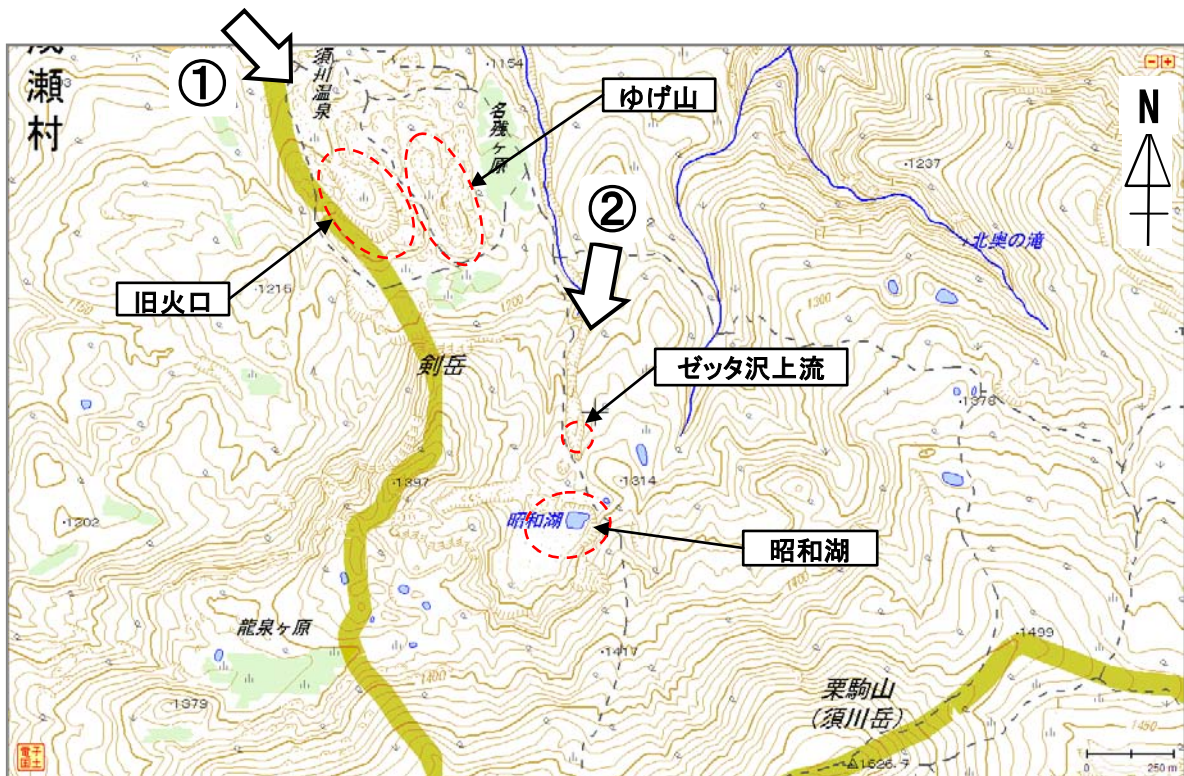


図3 栗駒山 上空からの撮影ポイントと撮影方向

・図中の矢印①は図4の、矢印②は図5の撮影位置と方向を示します。

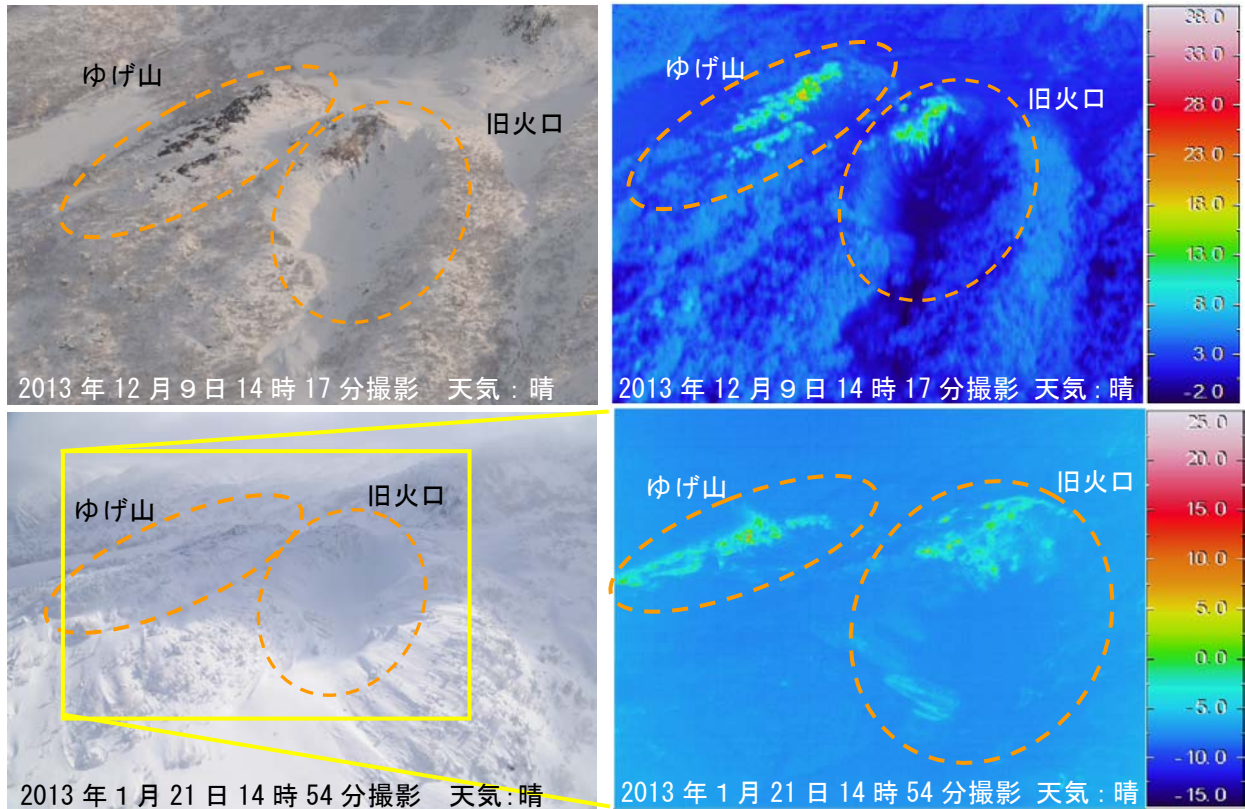


図4 栗駒山 ゆげ山、旧火口付近の可視画像(左)と地表面温度分布¹⁾(右)

- ・上段: 2013年12月9日 図3の矢印①方向から、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により撮影しました。左図中の黄色囲いは右図の撮影範囲を示します。
- ・下段: 2013年1月21日 図3の矢印①方向から、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により撮影しました。
- ・ゆげ山、旧火口付近の高温域に特段の変化は認められませんでした。

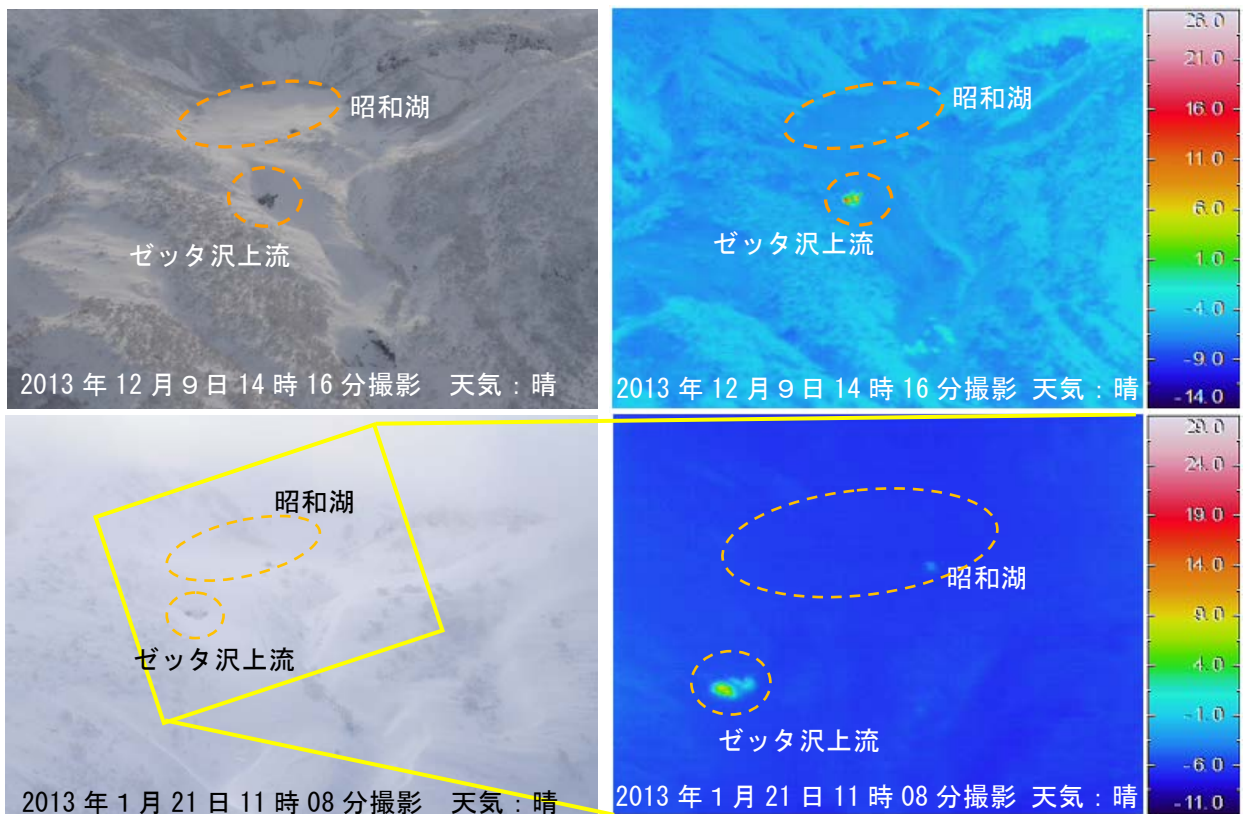


図5 栗駒山 ゼッタ沢上流、昭和湖付近の可視画像(左)と地表面温度分布¹⁾(右)

- ・上段: 2013年12月9日 図3の矢印②方向から、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により撮影しました。
- ・下段: 2013年1月21日 図3の矢印②方向から、陸上自衛隊東北方面総監部の協力により撮影しました。左図中の黄色囲いは右図の撮影範囲を示します。
- ・昭和湖に高温域は認められず、ゼッタ沢上流の高温域にも特段の変化は認められませんでした。

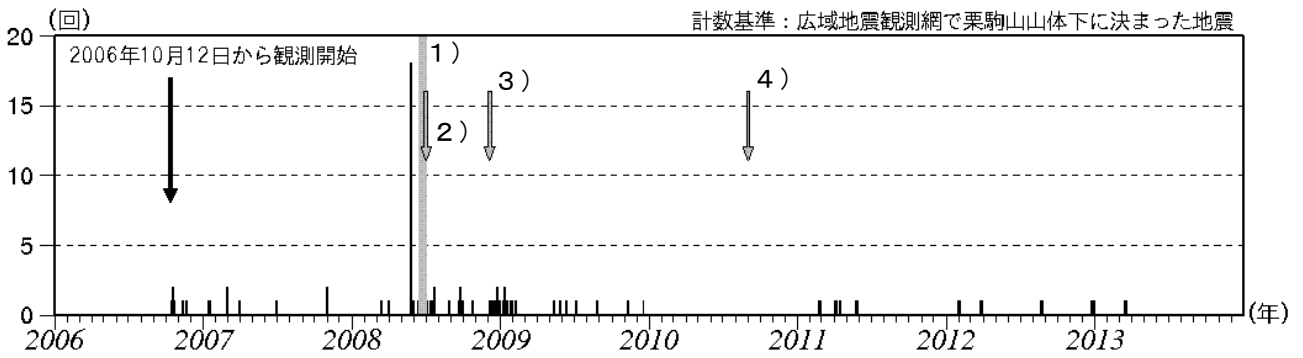


図6 栗駒山 日別地震回数 (2006年10月～2013年12月)

- ・2006年10月12日から旧耕英観測点 (山頂から南東約4km) で観測を開始しました。
- 1) 2008年6月14日から7月2日18時 (図の灰色部分) まで岩手・宮城内陸地震の影響により観測不能となっていました。
- 2) 2008年7月2日18時から小安 (おやす) 観測点 (山頂から北西約10km) で監視を開始しました。
- 3) 2008年12月4日から旧耕英観測点が観測を再開しました。
- 4) 2010年9月1日から耕英観測点 (山頂から南東約4km、旧耕英観測点とほぼ同じ場所) で観測を開始しました。

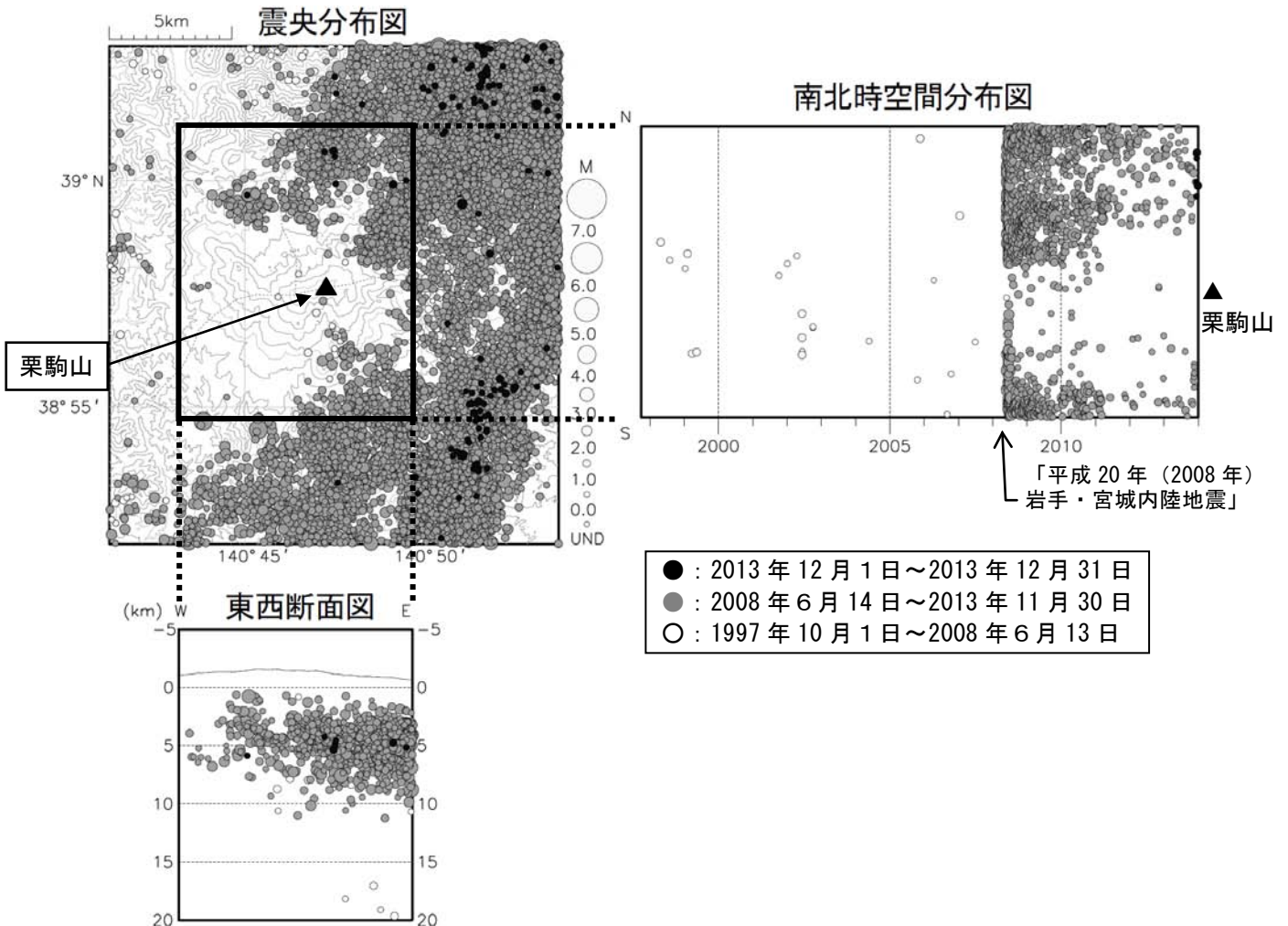


図7 栗駒山 広域地震観測網による栗駒山周辺の地震活動 (1997年10月～2013年12月)

- ・2001年10月以降、検知能力が向上しています。
- ・M (マグニチュード) は地震の規模を示します。
- ・図中の一部の震源要素は暫定値で、後日変更することがあります。
- ・「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」以降の活発な余震活動等により、規模の小さな地震については未処理のものがああります。

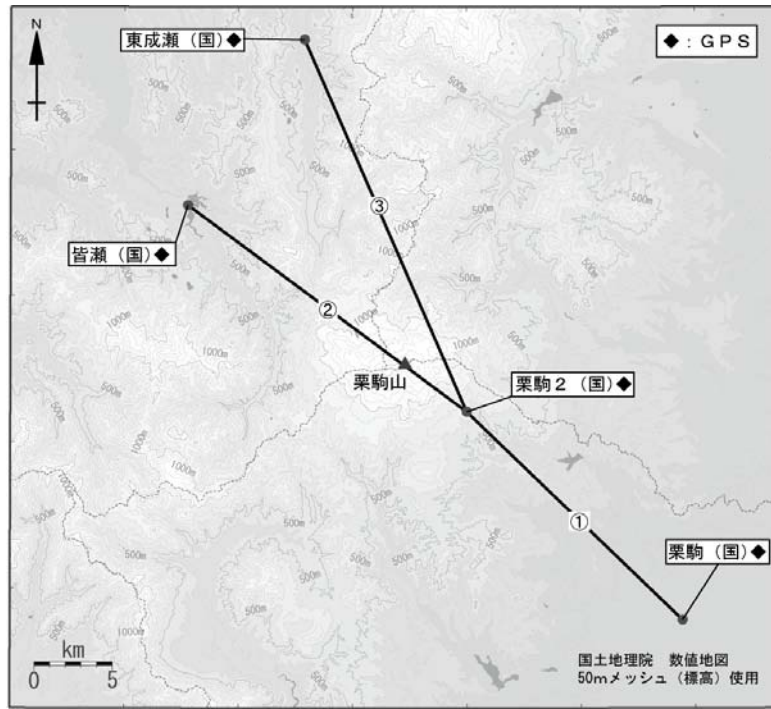


図 8 栗駒山 GPS 観測点配置図

小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院

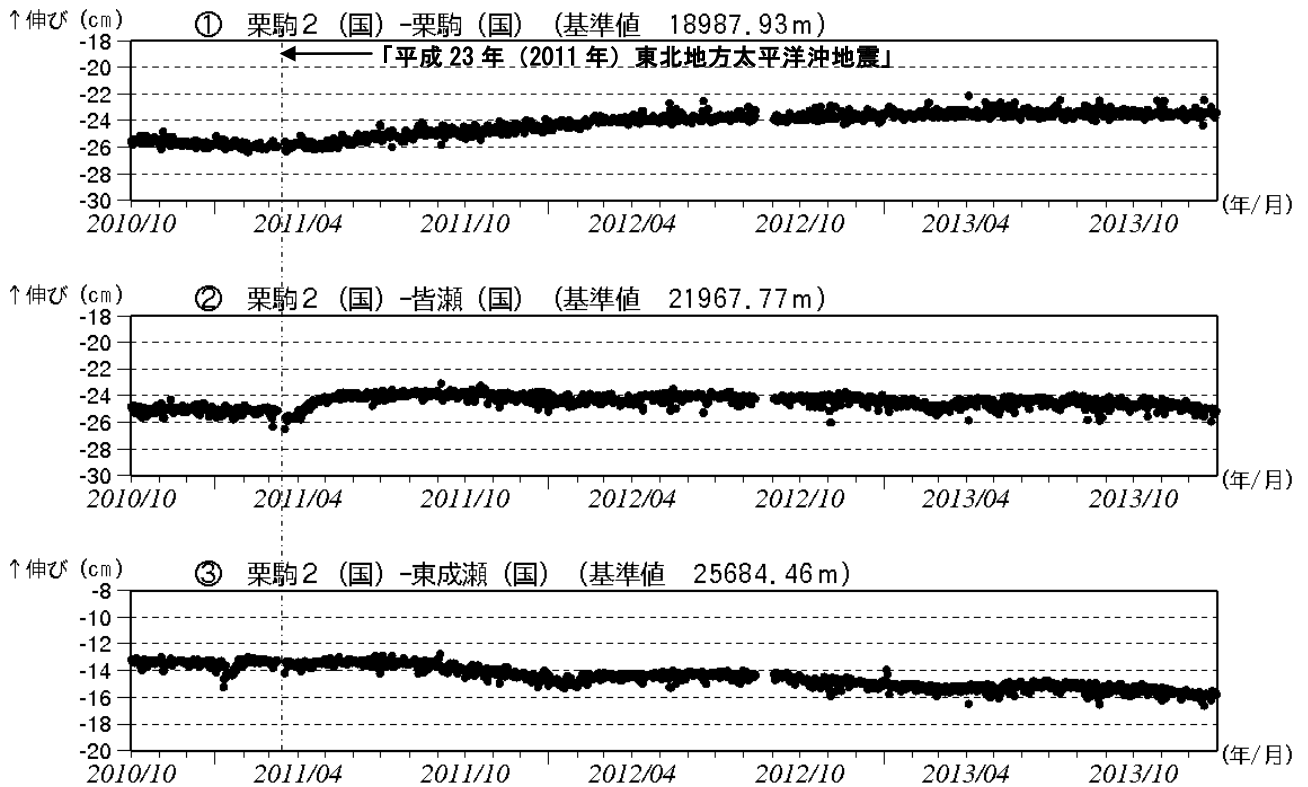


図 9 栗駒山 GPS 基線長変化図 (2010 年 10 月～2013 年 12 月)

- ・ 2011 年 3 月 11 日以降の変動は、「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。
 - ・ 「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ①～③は図 8 の GPS 基線①～③に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
- (国) : 国土地理院